

看 護

1 学習指導及び学習評価の改善・充実

(1) 看護科における個別最適な学び、協働的な学び

学習指導要領においては、一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められている。

看護科においては、これまでも看護の見方・考え方を働かせ、地域の医療機関等と連携を図りながら、科目「看護臨地実習」等の実践的・体験的な学習を通して、地域や社会の保健・医療・福祉を支え、人々の健康の保持増進に寄与する職業人の育成に取り組んできた。

また、少子高齢化の進行、入院期間の短縮、在宅医療の拡大などを踏まえ、看護を通して、地域や社会の保健医療福祉を支え、人々の健康の保持増進に寄与する職業人の育成が求められていることから、他の職種と連携・協働し、多様な生活の場にいる人々の看護について、専門性の高い実践力を養う学習、医療安全に関する学習や、各領域における倫理的課題に関する学習の充実を図り、さらにICT環境の活用、少人数によるきめ細かな指導体制の整備を進め、「個に応じた指導」を充実していくことが重要である。

実習や演習を行う活動においては、状況設定や実施方法を理解することが困難な生徒に対して、見通しがもてるよう、実習や演習の手順等を具体的に明示したり、扱いやすい器具を用いたりするなどの配慮をすることや、温湯を用いる清拭や注射の準備などの危険を伴う学習活動においては、教師が確実に様子を把握できるよう配慮することが必要である。

(2) 看護科における共通性の確保を目指した学び

看護科の学びは、看護に関する知識・技術に加えて、現場での対応力や判断力、さらには、患者理解を深めるコミュニケーションを身に付けさせることが重要であることから、学習全般を通して、自己調整力や他者と協働し、課題を解決する力、当事者として社会に主体的に参画しようとする力などの「共通性の確保」に向けた学びをこれまでも実施している。今後は、療養の場の多様化に応じて、学習したことを踏まえ、多様な視点や立場から物事を主体的に考える力や、様々な施設及び多様な対象で実習を行うことなどを通して、学びを深めることが重要である。

加えて、探究的な学びや地域社会とつながる実践的・体験的な学びを通して、「自己肯定感」を育成した上で、「自己効力感」を高めることが看護師を目指す上で重要であり、これらの醸成を図ることのできる場面づくりも必要である。

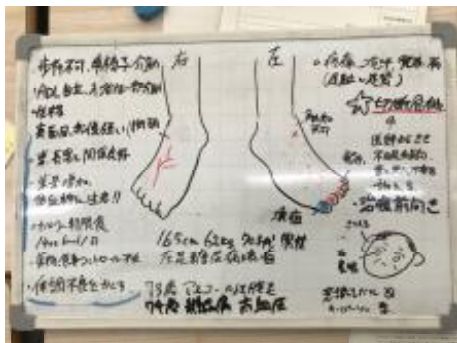
(3) 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるための学習評価

「主体的に学習に取り組む態度」の評価においては、学習に対して粘り強く取組を行おうとする側面と、自らの学習を調整しようとする側面を、学習場面における観察やワークシートへの記載内容から評価する。

例えば、看護過程の学習における看護計画の作成に当たり、次の4点を評価する。

- ① 知識・技術を習得しようとする取り組み態度
- ② 思考力・判断力・表現力を身に付けようとする取り組み態度
- ③ 個別性に応じた看護を実践しようとする態度
- ④ 次時に向けて見通しをもち取り組もうとする態度

＜ポートフォリオ等への取組を通した「主体的に学習に取り組む態度」の評価例＞



科目「基礎看護」単元：「看護過程の展開」

看護計画の作成において、記載内容を参考に評価する。例えば、学習で獲得した知識・技術をもとに、患者に対する理解の程度や、看護に当たって取り入れたい点、今後につながる改善点についての記載を踏まえ、評価を行う。

(ホワイトボードを用いた援助方法の計画例)

2 学習指導要領における指導と評価の計画例

(1) 基礎看護の計画例

ここでは、単元「活動と運動」の指導と評価の計画例及び指導上の留意点や評価における具体的な考え方を示している。

本単元においては、活動や運動が健康に及ぼす影響、姿勢・体位の種類と生理的な特徴、ボディメカニクスの原理を踏まえ、安楽な体位と良肢位の保持、体位変換、移動と移送、制限内での活動と運動を促すための基本的な知識と技術を身に付け、活用できるようにすることをねらいとしている。

ア 単元の目標

(ア)	活動や運動の援助について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
(イ)	活動や運動の援助について基本的な課題を発見し、倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を見いだす力を養う。
(ウ)	活動や運動の援助について自ら学び、人々が自立した生活を送れるよう主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

イ 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
活動と運動の援助について体系的・系統的に <u>理解している</u> とともに、関連する技術を <u>身に付けている</u> 。	活動と運動の援助について基本的な課題を <u>発見し</u> 、倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を <u>見いだしている</u> 。	活動と運動の援助について自ら学び、人々が自立した生活を送れるよう主体的かつ協働的に <u>取り組もうとしている</u> 。

ウ 単元の指導と評価の計画（18時間）※「○」指導に生かす評価、「◎」記録に残す評価

時間 (次)	ねらい、学習活動等 (学習活動の概要、主発問、指導上の留意点)	評価の観点		
		知	思	態
1～2 【2時間】	【援助の基礎知識】基本的活動の基礎知識として、よい姿勢とはどのようなものか、ボディメカニクスとその基本について理解する。	◎		
3～4 【2時間】	【援助の基礎知識】基本体位と特殊体位、及びそれぞれの特徴について理解する。	○	◎	
5～10 【6時間】	【援助の基礎知識】移動（体位変換・歩行・移動・移送）の目的や援助の実際について根拠とともに理解する。			
11～14 【4時間】	【援助の実際】体位・体位変換・移動・移送の技術を実際に行い、援助に関わる課題を発見し、解決策を見いだす。		○	◎
15～18 【4時間】	【援助の実際】車椅子・ストレッチャーを実際に扱い、援助に関わる課題を発見し、解決策を見いだす。		○	◎

ICT端末を活用し、生徒自身で援助に関わる課題を発見する。

エ 学習指導案（3～4時間目／4時間中）

校内実習で援助技術を行う場合、事前に手順書等を作成させ、それに基づき実習を行うことが望ましい。

校内実習においては患者役は生徒であり、その場合の援助は比較的簡単に実施できてしまう。しかし、実際の患者に対しては、校内実習同様に実施することができないため、本時においては、「自身が確認した方法で実施した実習」と「グループで援助の根拠を確認した方法での実習」を比較させることにより、根拠に基づいた技術の習得を目指している。

学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意事項	【観点】■評価方法
導入 自己の手順書の確認	【グループ学習】作成した手順書の根拠の記載内容についてグループで確認する。	前時に「日常生活援助計画用紙」に体位変換の手順についてまとめ、本時に臨むよう指示する。 ・担当する場面をグループごとに分けて実施する。（左右の水平移動、上方移動、仰臥位から側臥位、側臥位から長座位、端座位から立位） ・どの部分で根拠を記載しているのか、メンバーで共有する。	グループワークシート・発表用シートは、Googleスプレッドシートで作成し、全てICT端末を活用し、入力させる。
展開1 グループで作成した手順書に基づき、体位変換を実施する。	【グループ学習】グループで作成した手順書に基づき実施する。	・1回目実施（自身が確認した方法で実施） ・2回目実施（グループで根拠を確認しながら実施） ・1回目、2回目ともにタブレット端末を使用して撮影をする。（撮影場面は実際に移動を行う場面に限定する。）	
展開2 撮影された実施場面の問題点と改善点について考察する。	【グループ学習】撮影した動画を見て問題点を見つけ、グループワークシートを活用して問題点を整理する。その後、発表用シートにまとめる。	・撮影された動画をグループで視聴し、問題点と解決方法についてグループワークシート①を利用して入力する。 ・KJ法により、理由と解決方法についてグループワークシート②にまとめ、発表用シートを作成する。 ・根拠を説明するために、さらに写真やイラスト、動画を撮影してもよい。	【思】 ■グループワークシート①【例1】 グループワークシート②【例2】 発表用シート【例3】
まとめ まとめ	【一斉学習】援助方法についてクラス全体でシェアリングする。	・根拠に基づいた実施方法について紹介しながら発表する。 ・自分が実施する際に工夫したいことについてまとめる。	【態】 ■手順書【例4】

オ 学習の進め方や学習評価の工夫

(ア) 「個別最適な学び」や「協働的な学び」を充実させるための工夫

ここでは学習支援ソフトで作成した【例1】グループワークシート①と、【例2】グループワークシート②、【例3】発表用シートを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた例について示す。

本時は、体位変換の際に意識することや、根拠に基づいた動作を理解することを目的としており、学習の流れは次のとおりである。

- ① これまで自分が学習した方法で体位変換を実施（1回目）
- ② グループで体位変換の手順についての話し合い
- ③ 実習手順を整理
- ④ 動作の根拠を意識しながら体位変換を実施（2回目）
- ⑤ 振り返り

ここで大切なことは、自身が確認した方法での実施（1回目）よりも、グループで根拠を確認しながら実施（2回目）した方が「スムーズにできた」と生徒が感じることである。「なぜスムーズにできたのか」を根拠とともに考えさせ、手順に沿って確認することが重要である。

【例1】グループワークシート①（Googleスプレッドシートで作成。生徒はICT端末で入力）

A	B	C	
生徒名	移動の際の問題点	理由や解決方法	
1 A	小さい人は動かせるが、とにかく重くて上手く動かせない。 自分より大きな人を動かすのが容易ではなかった。	看護師の支持基底面が十分に確保できていないのではないだろうか。	一人ずつ行を変え、気付いた「問題点」と「理由や解決方法」について入力する。 看護師の身体 の位置 看護師の身体 の動き 患者の身体 の動き 声かけ その他 KJ法のグループ分けを記入し、色分けしておく。
2 A		重たい人は、上肢と下肢をまとめた方が良いと思った。	
3 A	患者さん役の時、身体を動かすとき、看護師役の人の力がすごくて入っていて、びっくりした。	力を思い切り入れると、急に身体がもち上がる感じがした。水平移動の時は上にもち上がらないようになると良いと思う。	
4 B	一生懸命力を入れたのに、腕の力に任せきりだったので、手が痛くなった。	どこに力を入れるのか分からない。患者さんと自分の手の距離が近いすぎるのかも。患者と自分の距離を近づけるようにすることが大切。	
5 B	力のある人が看護師役だと、安心感がある。でも「よしよし」とかけ声をかけられると、少し自分が重い気になる。	かけ声が重いものをもつときになっているから。「1. 2. 3…」など工夫したら良いと思う。	
6 C	自分は、どうしても苦手である。かなり力を入れたのに身体を上持ち上げてしまう。	力を入れるだけではだめかもしれない。自分の体重を利用して動かすことはできないか。	
7 C	ベッド上で水平移動するとき、自分の身体を後ろに引くようにしたら上手くいった。	腕力に任せるのではなく、ボディメカニクスを使ったからだと思う。	
8 D	看護師の支持基底面を十分に確保すること、身体の使い方に工夫が必要なのではないか。	力の方向性を考えていたか？どこに向けて動かすといものだろうか。 例えば、右に移動するときは、斜め上にスライドするようにする。	
9 D	看護師は、自分の体重を移動方向に向かって動かす時、腕の力で動かしてしまう。	自分の動きを見据えて足を前後に開くといものかもしれない。	
10			

記入後、グループ分けの色を付けて整理する。

A	B	C	D
生徒名	移動の際の問題点	理由や解決方法	
A	小さい人は動かせるが、とにかく重くて上手く動かせない。自分より大きな人を動かすのが容易ではなかった。	看護師の支持基底面が十分に確保できていないのではないだろうか。	
A		重たい人は、上肢と下肢をまどめた方が良いと思った。	
A	患者さん役の時、身体を動かすとき、看護師役の人の力がすごくて入って、びっくりした。	力を思い切り入れると、急に身体がもち上がる感じがした。水平移動の時は上にもち上がらないようになると良いと思う。	看護師の身体 の位置
B	一生懸命力を入れたのに、腕の力に任せきりだったので、手が痛くなった。	どこに力を入れるのか分からない。患者さんと自分の手の距離が近いすぎるのかも。患者と自分の距離を近づけるようにすることが大切。	看護師の身体 の動き
B	力のある人が看護師役だと、安心感がある。でも「よしよし」とかけ声をかけられると、少し自分が重い気になる。	かけ声が重いものをもつときになっているから。「1. 2. 3…」など工夫したら良いと思う。	患者の身体 の動き
C	自分は、どうしても苦手である。かなり力を入れたのに身体を上持ち上げてしまう。	力を入れるだけではだめかもしれない。自分の体重を利用して動かすことはできないか。	声かけ
C	ベッド上で水平移動するとき、自分の身体を後ろに引くようにしたら上手くいった。	腕力に任せるのではなく、ボディメカニクスを使ったからだと思う。	その他
D	看護師の支持基底面を十分に確保すること、身体の使い方に工夫が必要なのではないか。	力の方向性を考えていたか？どこに向けて動かすといものだろうか。例えば、右に移動するときは、斜め上にスライドするようにする。	
D	看護師は、自分の体重を移動方向に向かって動かす時、腕の力で動かしてしまう。	自分の動きを見据えて足を前後に開くといものかもしれない。	

【例 2】グループワークシート②（Googleスプレッドシートで作成。生徒はICT端末で入力）

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	グループごと考えた内容を表示し、実施のポイントをまとめよう！					実施のポイント			
2	看護師の身体 の位置	看護師の支持基底 面が十分に確保で きていないのではな いだろうか。	どこに力を入れる のか分からない。 患者さんと自分の 手の距離が近い ぎるのかも。患者 と自分の距離を近 づけるようにする ことが大切。	自分の動きを見据 えて足を前後に開 くといひのかもしれ ない。		足を前後に開いて 支持基底面を確 保する。	患者と看護師の身 体を近づける。そ うすると、重心点 が支持基底面を通 り、バランスが良 くなる。		
3	看護師の身体 の動き	力を思い切り入れ ると、急に身体がも ち上がる感じがし た。水平移動の時 は上にもち上がら ないようにすると良 いと思う。	力を入れるだけで はだめかもしれない。 自分の体重を 利用して動かすこ とはできないか。	腕力に、任せるの ではなく、ボディメ カニクスを使ったか らだと思う。	力の方向性を考え ていたか？どこに 向けて動かすとい いだろうか。 例えば、右に移動 するときは、斜め上 にスライドするよう にする。	腕力にまかせるの ではなく、看護師 の身体の重さで患 者さんの身体が動 くようにする。	看護師の膝を支点 にして、ベッドフ レームに当てるこ とで、膝をこの 支点にする。		
4	患者の身体 の動き	重たい人は、上肢と 下肢をまとめた方 が良いと思った。				患者さんの身体は 小さくまとめたほ うが、接地面が狭 く動かしやすい。 かけ声は重さを感じ させないように配 慮する。	②生徒の記入した問題点に対する「理由や解決方法」について、グループ毎に並べ変える。その後グループで話し合いをしながら、実施のポイントについて考えさせ、根拠が分かるように記載する。		
5	声かけ	かけ声が重いもの をもつときになって いるから、「1、2、 3…」など工夫した ら良いと思う。	①生徒一人一人が考えた「理由や解決方法」について、KJ法を利用して色分けしたものを見やすい形に整える作業である。前段で色分けしたものを整理し、グループごとに見やすい形にする。						
6	その他								

【例 3】発表用シート（Googleスプレッドシートで作成。シート②の学びをもとに入力）

患者さんの身体を小さくまとめる。

膝を支えにする。

かけ声は重さを感じないよう配慮する。

支持基底面を確保するために、前後に足を開く。

腰を動かす方向 腰を落としていくイメージで。

患者さんと看護師の身体が近づくようにする。

シート②の学びの内容について、図を使用してまとめる。グループ分けされたものについては、色分けして表示する。

(イ) 学びに向かう力を育成していくための「学習評価の工夫」

ここでは【例4】手順書の記載を通して「主体的に学習に取り組む態度」の評価例について示す。

【例4】手順書

(表)

(裏)

援助計画（手順書）ワークシート

援助項目：体位変換（左右への水平移動）	
目的①同一体位による患者の苦痛を緩和し、関節拘縮・変形、循環障害・神経麻痺、褥瘡を予防する。 ②ADL（食事・排泄など）に必要な体位保持、治療・処置に必要な体位保持を援助する。	
必要物品 枕、クッション、毛布、体圧分散用具	
手 順	実施上の留意点（根拠）
<準備> (1) 看護者は時計などをはずす。 (2) ボディメカニクスを活用するために作業環境・作業域を確保する。 ・ベッドの高さを調節し、水平な状態にする。 ・ベッドのストッパーがかかっているか確認する。 ・ベッド周囲の床頭台・椅子などをベッドから離す。 ・ベッド幅を取り外し、掛け物を外す。 ・身体に装着されているチューブやドレーン、牽引のための器具などがある場合、支障がないように整える。 (3) 体位変換後、患者の身体がベッドの中央に位置するように、必要に応じてあらかじめ左右または上下に水平移動する。 <左右への水平移動> (4) 枕の位置を、移動後の頭の位置に合わせてずらす。患者の耳介側より看護師の両小指側の側面から、手首を枕に押さえつけるように差し込み、手指を広げ後頭隆起部を手掌の中心で支え、頭部をもち上げる。片方の手で枕を手前に静かに引き抜く。 (5) 看護師は患者が移動する側に位置する。 (6) 患者に胸部の前で腕を組んでもう一方の腕を屈曲し、足底をやや広げ安定させる。 (7) 患者の生理的湾曲に合わせて、頭部と腰部に前腕を深く差し込み、前腕の上に患者の上半身をのせるようにする。手掌を広げ反対側の肩、側胸部を軽く支える。 (8) 看護師の下肢を前後に開き、重心を前側から後ろ側の足の中心に移動し、患者の上半身を手前に水平に移動する。 (9) 腰部と大腿上部に前腕を差し込み、骨盤部を手掌で包み込むようにし、手前へ滑らせるように水平に移動する。	「手順」の横に対応する形で「実施上の留意点（根拠）」を記載させる。手順の場面でどのような留意点や根拠を持って実施すべきなのか理解できるようにする。

【援助項目：体位変換（左右への水平移動）】

手 順	実施上の留意点（根拠）
(10) 下肢をのばし、身体全体にねじれないように整える。患者の体重が重い場合やドレーンが挿入されている場合、手術後などはスライディングシートを用いたり、看護師2人以上で行う。	

援助を実施するためのマニュアルとする。
目的・必要物品・手順について、一連の流れを記載する。このワークシートは実習前の課題として行い、実習当日は記載されたものを持参する。

安全安楽に体位変換を行うための工夫

評価は、下記(ウ)参照

患者・看護師両方にとって負担の少ない体位変換の工夫

(ウ) 評価例

○ 十分満足できる (A) の評価例

安全安楽に体位変換を行うための工夫

- ・体位変換が終了したときの患者さんの姿になるにはどうしたらいいか考えるようにする。
- ・病棟ではベッドの患者さんの周りに物が置かれていることがあると思うので、体位変換時は物を移動してぶつからないようにする。
- ・ベッド上で安静にしている患者さんでもベッドから転落する危険があるので、ベッド柵の取り外し、取り付けの時にはしっかり観察を行う。
- ・患者さんへの説明を行うことで、患者さんの協力も得られるようにする。

根拠とともに次に取り入れたい点や、次の実践に生かしたいことが記入されている。

患者・看護師両方にとって負担の少ない体位変換の工夫

- ・看護師は自分の身体を支える場所（支点）を見付けてから移動動作をすることが大切。
- ・患者さんの身体をもち上げようとせず、自分の身体の重さを利用して、移動を行うようにする。
- ・患者さんの身体の一つ重たいところを動かすようにする。
- ・患者さんの身体の生理的湾曲部や身体の動きを利用して動かす。

○ おおむね満足できる（B）の評価例

安全安楽に体位変換を行うための工夫

- ・体位変換をするときに、一つ一つ確実にを行う。
- ・患者さんの周辺に物が置かれていないか確認する。
- ・転倒転落の予防のため、ベッド柵はできるだけ外さずに行う。
- ・患者さんへの声かけは最初に行う。

次時に実施する際の具体的な行動目標のような記述はないが、根拠となる内容を記載できている。

患者・看護師両方にとって負担の少ない体位変換の工夫

- ・ボディメカニクスを意識する。
- ・自分の重心を動かすことで、患者さんを動かせるようにする。
- ・手順は一つずつ確認しながら実施する。
- ・患者さんの身体のつかみやすい場所を探して、看護師の手を入れるようにする。

○ 努力を要する（C）の評価例

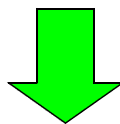
安全安楽に体位変換を行うための工夫

- ・体位変換が終了した時の患者さんの状態をイメージする。
- ・患者さんの周辺に物が置かれていないか確認する。
- ・ベッドの高さを変える時や、ベッド柵を外す時には患者さんから目を離さない。
- ・患者さんへの説明を忘れない。

根拠とのつながりや、次の自身の行動などが明確に表現されていない。

患者・看護師両方にとって負担の少ない体位変換の工夫

- ・ボディメカニクスを意識する。
- ・自分の重心を動かすことで、患者さんを動かせるようにする。
- ・患者さんの身体が一番重たいところを動かすようにしている。
- ・患者さんの身体の生理的彎曲部や身体の動きを利用して動かす。



※ 努力を要する（C）評価の生徒への手立て

工夫の内容が記載されているが、根拠との結び付きが明確に表現されていない場合、「なぜその工夫が必要であるのか」を考えさせ、記載させるようにする。